

所属・資格 英文学科・教授

申請者氏名 野呂 有子

研究課題	① 17世紀叙事詩の John Milton の総合的研究—その13 ② William Shakespeare の総合的研究—その12 ③アーサー王伝説の総合的研究—その7 ④より良い授業展開と教材開発のための総合的研究—その2	
報告の概要	<p>研究目的</p> <p>および</p> <p>研究概要</p>	<p>① 17世紀英国の叙事詩人 John Milton の研究を続けている。(a)継続して焦点化しているのは、現代の民主主義的精神の原点としての「国民権神授説」をミルトンが具体的にどのような観点から理論立てているか、ということである。今年度はミルトンが、クロムウェル率いる英国共和制の命を受けて、母国語英語で「王権神授説」に反駁して執筆した『偶像破壊者』を中心に研究を行った。(b)日本を代表するミルトン研究者新井明の執筆論文編集及び英語論文翻訳、解説執筆作業を行った。(c)ヨーロッパの民主主義的精神涵養に道を拓いたラテン語政治論文 Pro Populo Anglicano Defensio の後続論文 Pro Populo Anglicano Defensio Secunda に関して、本大学図書館所蔵の Early English Books Online から原典をダウンロードし、解読作業を行い、既公刊の当該ラテン語テキストとの比較・検証を行った。成果は近日中に、「野呂有子の研究ウェブサイト」(http://www.milton-noro-lewis.com/database.html)に搭載する。(d)ミルトンの歴史観を理解するために、野呂が主宰するミルトン研究会(年3回)「毬藻の会」で『ブリテン史』を読解・翻訳作業を行っている。(e)日本国内ではほぼ手つかずのミルトンのラテン語詩について研究会を立ち上げ、年3回研究を行ってきた。次年度中の出版を視野に入れて、元指導学生の日本語下訳を加筆修正してきた。</p> <p>② Shakespeare の劇作品を“the intended audience/the true hero”という独自の視点で分析・研究してきた。その際、Shakespeare が「隠れカトリック」だったという前提に立って考察を進めている。今年度は昨年度に続けて、Hamlet および Richard II に焦点を当てて研究を行った。</p> <p>③ イギリス文学におけるアーサー王伝説の影響を、Spenser、Shakespeare、Milton、Tennyson やラファエロ前派、更に夏目漱石らに与えた影響について今年度も継続的・総合的に研究を進めてきた。①②③に共通して、visual arts の面からも考察した。</p> <p>④ に関しては、今年度も大学教育学会などの主催する研究大会に積極的に参加して知識を増やし実践を進めていこうと努めてきた。</p>
概要	研究の結果	<p>① (a)『偶像破壊者』の翻訳はほぼ終了し、現在は全体の見直し作業を行っている。(b)2018年9月の『新井明選集 第1巻』「ミルトン研究」出版という形で成果が公開されている。(c)Pro Populo Anglicano Defensio Secunda については打ち込み・確認、先行研究との比較・検証がほぼ終了し、現在は今年度中に「野呂有子の研究ウェブサイト」に搭載する準備を進めている。(d)現在は『ブリテン史』第4巻(全6巻)の半ばまで翻訳作業が進んでいる。②③に関しては、今回はまだ形にはなっていない。④に関しては新たに野呂の論文を「野呂有子の研究ウェブサイト」に搭載し、学生および院生の教材として内容の充実度を高めていく。</p>
研究の考察・反省		<p>野呂の第一のライフ・ワークである①ミルトン研究に関しては、今年度は極めて実り多き年度であったことが考察される。④に関してはウェブサイトで公開した諸論文は学生・院生が論文を執筆する際に手本・具体的な指導書として活用された。その成果として、今年度の指導学生の卒業論文のレベルが飛躍的に高まったことが挙げられる。また、院生に関しても、指導する院生(博士後期課程所属4名、博士前期課程所属1名)全員が、最低1本、最高で4本の研究成果を出した。これからも研究ウェブサイトを多いに活用して、計画的に学生・院生のための、より良い教材提供を行っていく。</p>

<p>研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者</p>	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>1) 電子ブック『Pro Populo Anglicano Defensio Secunda 1654』『イングランド国民のための第二弁護論』(1654)年版』2019年3月29日。編集主幹(共同研究者上滝圭介、天海希菜、滋野元樹)</p> <p>2) 『新井明選集1 ミルトン研究』(リトン)「解説」執筆、2018年9月5日</p> <p>3) 同上、“Reading Milton in Japan” 翻訳 (「日本でミルトンを読むということ」)</p> <p>4) 書評『新井明選集1 ミルトン研究』—今に生きるミルトン』『週刊読書人』2019年1月11日発行、第3272号、(5)。</p>
--	---